

## フィールドパートナー 自己紹介カード

「フィールドパートナー」とは フィールドワークパートナーの略称。

水俣・芦北地域のフィールドで、史実に基づいて解説し、来訪者とともに考察します。

社会課題を自由に考えることを妨げない案内を心がけています。 since2011

名 前/<sup>たかぎ みのる</sup>高木 実

所属/水俣芦北公害研究サークル

元中学校教師社会科担当

出身/福岡県志免町、八代市二見育ち

特技/地理好き、カラオケ



### なぜフィールドパートナーをされているのでしょうか

私が水俣の学校教員になり水俣病のことを知り、いろいろなことを考えたのと同じように、水俣に来たみなさんが五感の全てを使って水俣病とは何か考えてほしいと願っているからです。

### あなたにとって、水俣の魅力はなんですか

人々が支え合い作り上げてきた山林、棚田、茶畑やみかん畑など美しい景観。人々の知恵と工夫が詰まった様々な産物。肥後と薩摩の境に位置することによる歴史や文化の特性などに、魅力を感じています。お茶やサラダ玉ねぎを有名にした農家の人たち、伝統芸能を復活させた地域の人、戦時下で十分に学べなかったにも関わらず、たくさんの本を読破し、のちに市長になった人、合唱を通じて水俣の人たちに勇気と感動を与えた人たちなど、その人たちの熱い思いや活動の姿も水俣に来た人たちに知ってほしいことです。

### 子どもたちや若者たちに何を伝えたいと思って案内していますか

「私は水俣病になったから視野が広がった」と言われる水俣病患者がいらっしゃいます。自らの水俣病を通じて、社会のしくみや矛盾に気づかれたのです。また、水俣病を自分事とし、水俣病患者の支援に力を注ぎ、自分自身の生き方も見出した人がいます。人類はこれまで何度も戦争や公害を起こしてきました。戦争や公害を他人事と思えば、戦争や公害に至る際に起こる「異変」に気づかず、何度も同じ過ちを繰り返すと思います。

### 若い人たちは、水俣から何を学んでほしいと思いますか

水俣病患者や家族が受けてきた理不尽を知れば知るほど、真実が通らない社会のおかしさを感じます。真実が通る社会にするにはどうしたらいいのでしょうか。だれかを犠牲にする「社会発展」、困っている人を無視する「明るい社会」はありえないのではないのでしょうか。命と健康を軽んじた失敗を人類の教訓にできないのでしょうか。